

## 第4学年国語科学習指導案

日 時 平成22年11月19日(金) 4校時

児 童 4年2組 男20名 女20名 計40名

指導者 村田 慶

### 研究課題

自分の考えを明確に書く力を高める授業

#### 研究課題について(設定理由)

本学級は、「何を書いてよいかわからない。」や「どのように書けばよいかわからない。」など、文章を書くことに対して抵抗感が大きい児童や苦手意識を持っている児童が多い。また、書くことが好きでたくさんの量を書くことができる児童もいるが、調べたことの羅列で終わっていたり、伝えたいことの中心がずれてしまっていたりすることも多く見られる。

そこで、意欲的に学習できるような課題設定や、書きたい中心が明確になるような構成・記述などについての指導方法を工夫する。そして、評価と助言を繰り返していくことで、抵抗感や苦手意識が少なくなり、意欲をもって書く活動に取り組みながら、自分の考えを明確に伝える力が身に付くのではないかと考え、本課題を設定した。

### 1 単元名 調べたことを知らせよう

教材名 「生活を見つめて」

「表やグラフにまとめる」(光村図書 4年下)

### 2 単元について

#### (1) 児童観

これまでに児童は、「書くこと」の学習として、「新聞記者になろう」では、自分が興味をもったことについて取材し、グループで割り付けを考え、新聞にまとめる言語活動を行った。このことにより、正確に伝えるために、インタビューやアンケートなどの方法で必要な事柄を集めることができるようになってきている。また、「四年三組から発信します」では、学校の中にある物の中から疑問に思っていることについて調べ、ペアで割り付けを考え、新聞にまとめる言語活動を行った。このことにより、集めた情報の中から、相手意識や目的意識をもって必要な事柄を選ぶことができるようになってきている。また、「読むこと」の学習として、「かむことの力」と「アップとルーズで伝える」では、段落と段落のつながりを考えながら、文章全体の中での段落の役割について学習してきた。さらに、毎週の日記で、3段落構成を意識して文章を組み立てたり、各教科のまとめに書く活動を取り入れたりして、日常的に書く活動に取り組んでいる。

これらの学習経験を生かしながら書きたい中心を明確にするための方法を学び、進んで書く活動に取り組めるような授業を行うことができれば、児童の書く力を高めることができるのではないかと考える。

#### (2) 教材観

本単元で育てたい主となる能力は、新学習指導要領第3学年及び第4学年の「B 書くこと」の内容にある「イ 文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること」である。

本単元「調べたことを知らせよう」では、自分たちの普段の生活を見つめ直すために、生活の中で疑問に思ったことについて調べ、調べて分かったことや考えたことが読み手に伝わるように、段落相互の関係を考え組み立てて調査報告文を書くことをねらいとしている。

本教材「生活を見つめて」は、より客観的な調査によって、自分たちの生活への関心を深めていく教材である。インタビューやアンケートを中心に取材をして、調べた結果を表やグラフを使って表すことは、「新聞記者になろう」の学習で取り組んだ児童もいるが、それについての考察を述べ、調査報告文にまとめることは、どの児童にとっても初めての経験である。しかし、例示されている調査報告文は、「始め—中—終わり」という文章構成になっていて分かりやすい。さらに、段落の初めの言葉を意図的に示し、1つの段落で1つの内容が書かれている。したがって、この教材は論理的な文章構成で自分の考えを明確に書くことができるようになるための、また、児童が客観的なデータを基にして考察を深めることができるようになるための素地を養っていくために適した教材であると考えられる。

### (3) 指導観

指導に当たっては、次の点に留意していきたい。

第一次では、自分たちの生活を見つめ直すために調査報告発表会を開くというゴール像をもたせることで学習の見通しをもたせ、毎時間の学習に意欲をもつことができるようにする。

第二次では、アンケートを通して得た情報を表やグラフにまとめることで、調べた結果が分かりやすく整理されることに気づけるようにする。また、調べて分かったことや自分の考えをメモカードに整理することで、事柄ごとのまとまりを考えることができるようにする。

第三次では、例示されている調査報告文の構成について学び、蓄積したメモカードを並べ替えることで、調査報告文の構成についての理解を深め、文章を書くことができるようにする。

第四次では、調査報告発表会を開き、感想や意見を交流することで、自分たちの生活を見つめ直すことができるようにする。

## 3 学習指導目標

### (1) 国語への関心・意欲・態度

○ 自分たちの生活を見つめ直すために、生活の中で疑問に思ったことについて進んで調べ、調べて分かったことや自分の考えが分かりやすく伝わる調査報告文を書こうとする。

### (2) 書くこと的能力

○ 調べたことや自分の考えを明確に伝えるための構成を考えて、調査報告文を書くことができる。

(書 イ)

### (3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

○ 調査報告文の指示語や段落の初めの言葉に着目し、文章全体の段落相互の関係を理解することができる。

(言イ【ク】)

## 4 指導計画

(「書くこと」 18時間)

次	時	学 習 内 容
一	1	・「生活調査報告会」を開くことを知り、学習の見通しをもつこと。
	2	・自分たちの生活に関わることの中から、調べることを決めること。
二	3	・グループごとに、調内容や方法を決めること。
	4	・アンケートを作成し、調べること。
	5	・アンケートの結果を表やグラフにまとめること。
	6	・アンケートの結果から考えたことや、さらに調べてみたいことを考え調べること。
	7	
	8	・調べたこと、分かったことを整理すること。
三	9	・調査報告文の構成を理解すること。
	10 (本時)	・知らせたいことが伝わるようにメモカードを並べ替え、組み立て表を作ること。
	11	・組み立て表をもとに、調査報告文を書くこと。
	12	
13	・文章を推敲し、清書すること。	
14		
四	15	・「生活調査報告会」の準備をすること。
	16	
	17	・「生活調査報告会」を開き、感想や意見を交流すること。
	18	

5 本時の指導

(1) ねらい

知らせたいことが伝わるようにメモカードを並べ替え、組み立て表を作ることができる。

(2) 展開

段階	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価
導入 3分	<p>1 前時までの学習を想起する。</p> <p>2 本時の学習課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">知らせたいことが伝わるように、メモカードをならべよう。</div>	<p>・前時には、高島ようこさんが書いた調査報告文の構成について学習したことを確認する。</p> <p>・調べたことや考えたことなどを読み手に分かりやすく伝えるために、自分のメモカードを並べ替えて構成を考えると必要感を与える。</p>
展開 34分	<p>3 学習課題を解決する。</p> <p>(1) 教師のメモカードを、組み立て表に沿って並べ替える。</p> <p>(2) 提示された3つのモデルを見比べ、違いやよさを考える。</p> <p>(3) 自分の知らせたいことに合った組み立てを考え、組み立て表を作る。</p> <p>(4) ペアで読み合い、組み立てが適切かどうか交流する。</p> <p>(5) 全体で交流する。</p>	<p>・構成についての理解を深めるために組み立て表のモデルを提示し、メモカードの並べ替えをさせる。</p> <p>・自分の知らせたいことに合った構成を考慮することができるよう、中や終わりの段落数が違う組み立て表を提示する。</p> <p>・前時までに書いたメモカードを使って組み立てさせる。</p> <p>・組み立てに戸惑っている児童に対して、板書のモデルを手がかりに考えさせ、組み立てができるよう支援する。</p> <p>・組み立てができているかどうかを確認し合うために、ペアで読ませる。その際、分かりやすい構成になっているかどうか、修正が必要かどうかを交流させる。</p> <p>・友達の考えと自分の考えを比べながら聞くことで、調査報告文の構成についての理解をより確かなものにする。</p> <p>◇知らせたいことが伝わるようにメモカードを並べ替え、組み立て表を作ることができたか。 (組み立て表・発表)</p>
終末 8分	<p>4 学習のまとめをする。</p> <p>(1) 学習課題について分かったことをまとめる。</p> <p>(2) 学習の振り返りをする。</p> <p>5 次時の学習内容を知る。</p>	<p>・読み手に分かりやすく伝えるためには、どのように組み立てればよいかを確認する。</p> <p>・学習カードに学習内容の振り返りを記入させる。</p> <p>・次時では、本時に作った組み立て表をもとに調査報告文を書くことを知らせる。</p>